

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

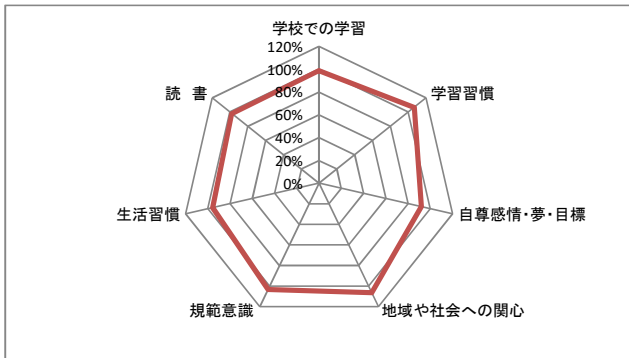
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析（傾向や特徴）	全国平均正答率との比較
国語	目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。しかし、文の中における主語と述語との関係を捉えることに課題がある。	上回っている
算数	帯グラフから読み取れることを選択したり書いたりすることはできるが、選択肢を読み解き解釈することが苦手である。また、「直角三角形の面積を求める問題」では、問題文にある数値を全て用いている誤答が多かった。このことから、公式の意味や成り立ちを意識させることが必要である。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

〇戸ノ上中学校区で取り組んでいる「スタディーウィーク」の成果があり、【学習習慣】は定着してきた。しかし、「自分で計画を立てて勉強している」と肯定的に回答している児童の割合は全国平均を下回っていることから、反復学習だけでなく、児童が主体的に取り組む「調べ学習」等の充実が必要である。

●【自尊感情・夢・目標】が全国平均を下回っている。しかし、「人の役に立ちたい」と肯定的に回答している児童は全国平均を上回っていることから、自己の課題としっかり向き合うことができていると考える。今後は、学校行事等を通じて、自己のよさに気が付くことができるようにしていくことが必要である。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・各授業では、引き続き、児童の言葉で「めあて」「まとめ・振り返り」を設定することを全校体制で行う。また、定期的に授業公開を伴う校内研修も実施する。タブレット端末で授業を録画し、全職員がいつでも視聴できる環境を整えることで、全ての教職員で授業改善に取り組んでいく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・「学校だより」等を通じて基本的生活習慣の定着に向けた啓発を今後も行い、各家庭と学校が協力して取り組んでいく。引き続き、児童の家庭学習ノートを展示し、進んで家庭学習に取り組む態度を養う。